

ゾノトーン

7NAC-Grandio07

4種の導体を使用したラインケーブル

¥62,895 (RCA)
¥68,145 (XLR)

7NSP-Grandio07

4種の導体を使用したスピーカーケーブル

¥71,400



ラインケーブル7NAC-Grandio07の端子はRCAとXLRの両方を用意。外側シールドから引き出されたアース端子は、出力側機器のアースに接続する

私はオーディオ愛好家であり、また録音にも携わっている。しかしオーディオケーブルには比較的興味が湧かず、ちょっと気になり始めたのは約8年前だっただろうか。マスタリングセンターで、ナチュラルな音調と解像度を求めるためにスタンダードとなるケーブル選択が行われ始めた時期である。しかしケーブル内部の構造により静電容量やインダクタンスの影響を受け、ケーブル導体の純度を追求したことで音が変わるのは理解できるが、ストレートな音色を示してくれるものは非常に限られ、しかも高価であった。

そうこうしているうちに昨年のハイエンドショウで手にしたカタログ、それがゾノトーン (Zonotone) だった。ゾノトーンはオルトフォンジャパンでオーディオケーブルを開発した前園俊彦氏が、退社後改めて興したブランド名である。

驚いたのはその構造だった。絶縁体の影響を軽減させ、静電容量やインダクタンスの数値を下げるのではないかと判断できるスパイラル構造、そしてリーズナブルな価格にも驚かされた。その後私はこの7NAC-Grandio10を購入して使用したが、鮮度の良さや圧倒的なエネルギー感に感心した。今では米粒

ほどの大きさになったオペアンプが、はるかに断面積の広いオーディオケーブルにつながり、音楽の純度を高めてくれる。理屈はわかっているが不思議な感じだ。

さて今回は、評価の高いゾノトーンの最高級Grandio10の構造を受け継ぎ、価格をリーズナブルにしたGrandio07シリーズから、7NAC-Grandio07 (RCAとXLR) ラインケーブルと7NSP-Grandio07 スピーカーケーブルを試聴することができたので紹介したい。

7NAC-Grandio07 ラインケーブル

まずはデザインと仕上げの美しさに驚いてしまう。RCAコネクタは24K金メッキされ、精密加工されたコレットチャックを採用している。キャップもニッケルメッキされ贅沢なもの。XLRはプロの定番ノイトリック製をベースとし、本来樹脂製のキャップ部を独自の高品位な金属製にしている。

3重シールドケーブルの一番外周のシールドは、スプリングを使ったものとなっている。このシールドをカバーするジャケットは紺色と黒色を使用し、強靱なナイロンを使いながらも上品に仕上げられている。見た目は硬そうに思われるかもしれないが、実にしなやかで使いやすい。シールド効果を一層高めるため、出力側の機器に接続できるアース端子まで付属している。外観だけでもきわめて贅沢な作りだ。そして肝心の線材と構造は実に緻密である。

その構造はDMHCと呼ばれ、D：ディスクリット (独立、個別) 構成で、M：マルチコンダクター (多芯導体) を使用。そしてH：ヘリカル・パラレル (螺旋・平行) にしたC：コンストラクション (構造) で、ホット・コールドに使われる導体も、超高純度7N銅、PCOCC、純銀コートOFC、高純度OFCの4種類を1本に束ねるのではなく、それぞれ相互に干渉させないで独立させ、4芯 (各1.3スクエア、ホット・コールドで合計8芯) 構成とし、さらに2重シ



スピーカーケーブル7NSP-Grandio07は直径16mmで、赤と黒の平行線で構成されている。アース線は引き出されていない



端末には雄ネジが切れ、Yラグとバナナプラグのチップに交換できる

ールドを施し、導体はコネクターのピン一点で結合させる方式をとっている。これら線材の選定には相当の試作と試聴が行われたようで、導体はさらに独自の比率を採用している。

これだけ緻密に導体を組み合わせ、信号の理想の流れを追究し、独自の構造まで確立したオーディオケーブルがあったであろうか。従来のケーブルで障害となる静電容量やインダクタンスなど、スターカッド構造を超えるヘリカル/パラレル構造により解決を見たのではないだろうかと思像される。

また両端末にはフェライトコアが取り付けられ、徹底したノイズ対策も行われている。

製造工程も相当複雑でコストがかかっていると思われるが、価格は高額品が多いなかであって、比較的安く設定されている。

7NSP-Grandio07 スピーカーケーブル

スピーカーケーブルは一見普通の2芯平行ケーブルのように見えるが、実はラインケーブルと導体の種類は同じにし、太さを変えて導体数を7芯(ホット・コールドで合計14芯)にしている。構造は同じくDMHCで、ホット・コールドそれぞれ同じ構成の平行線である。これを同社ではDMHC-Duoと呼んでいる。導体をカバーするスプリングシールドとジャケットは7NAC-Grandio07と同素材。

ラインケーブルよりも芯数が増えているが直径はさほど変わらない16mmで、実にしなやかで使いやすい。このスピーカーケーブルも製造工程が複雑といえよう。外観には思わず手にしたくなる質感が感じられる。

端末処理にも工夫が凝らされ、24K金メッキされたうえにネジが切つてある。これでYラグ端子とバナナ端子が簡単に交換できる構造となっている。

試聴記：個々の音が鮮明になる

私が自宅での試聴で一番良く使うのは、20年つき合ってきた静電型スピーカーである。ちょっとした変更でも即座にその結果を表してくれるからだ。まずは7NAC-Grandio07をCDプレーヤーとプリアンプの間に使用してみた。

ヒラリー・ハーンのシェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲では、冒頭からステージの広がり感が増したことに驚いた。やがて中央に現れるハーンのヴァイオリンの艶やかな高域と厚みある胴の響きが、より一層クローズアップされていることに気がつく。おどろおどろしいこの楽曲に、より一層の陰影を付け加え、個々の音が鮮明になることがこのケーブルの大きな特徴だ。

ビル・エヴァンスの名盤でも、シンバルの中心や外周を叩いていることが鮮明となる。ベースの激しいピチカートは音が飛び出てくるような弾力性が感じられる。余韻の短いピアノにも、一音一音のアタックが明確となる。

その後7NSP-Grandio07スピーカーケーブルを追加した。その結果はさらなる鮮度と広がりを見せ、演奏家のエネルギー感に勢いを付けたようになる。オケのトゥッティーでは、あたかも音量が増したようなインパクトある音圧を感じさせてくれた。スピーード感、レンジの広さは格別。(角田郁雄)

- 7NAC-Grandio07の主な規格
 - ▶ 導体抵抗：9.5mΩ/1m
 - ▶ 外径：φ15mm
- 7NSP-Grandio07の主な規格
 - ▶ 導体抵抗：5.8mΩ/1m
 - ▶ 外径：φ16mm